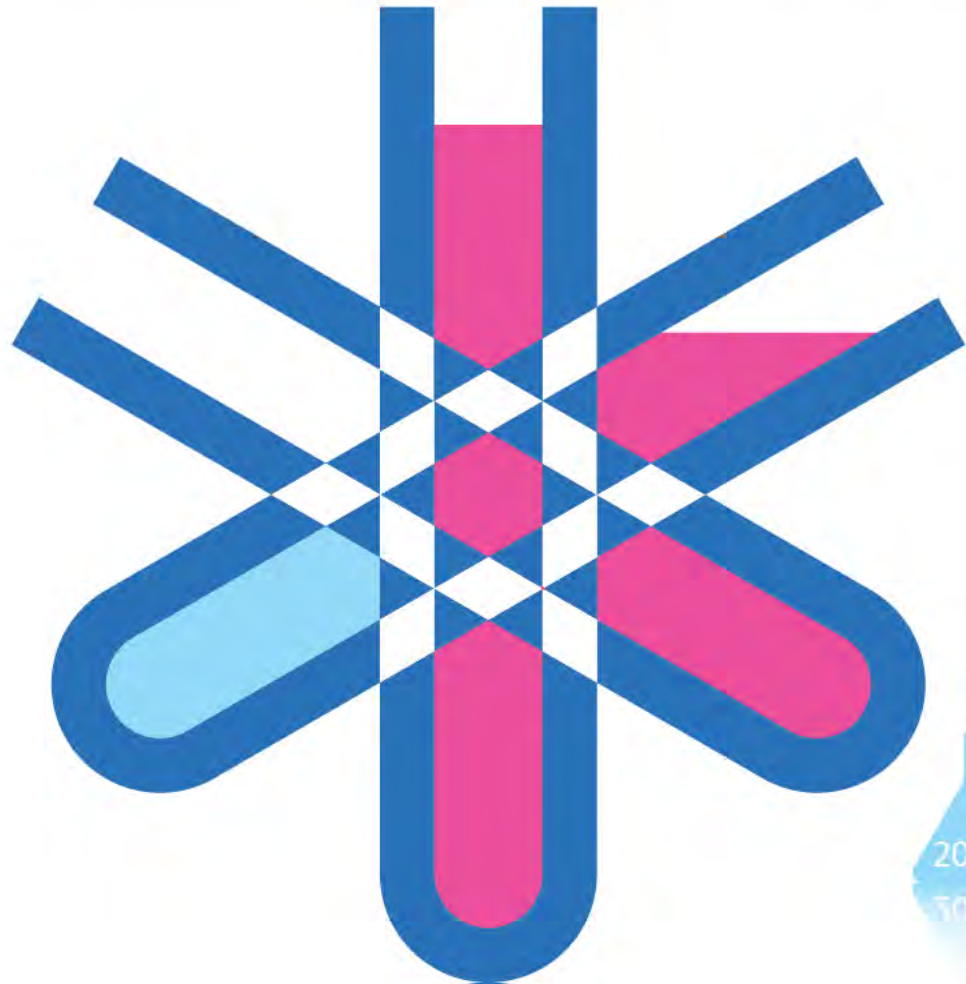


横查情報月報



2016
3月

横浜市衛生研究所

平成28年3月号 目次

【トピックス】

アレルギー物質を含む食品の検査結果(その2)	1
残留農薬検査(平成27年度 その4)	2
食品中の動物用医薬品検査結果	5

【感染症発生動向調査】

横浜市感染症発生動向調査報告 2月	8
-------------------------	---

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報	12
---------------------	----

アレルギー物質を含む食品の検査結果(その2)

現在、アレルギーの原因となることが知られている食品のうち、7品目(卵、乳、小麦、そば、落花生、えび、かに)が特定原材料として指定されています。食品にこれらの特定原材料を含む場合、その旨を表示することが義務付けられています。

平成27年10月～平成28年2月に健康福祉局食品専門監視班や各区福祉保健センターが市内のファストフード店・ファミリーレストラン等のチェーン店および保育園、小学校等にて収去した食品や特定原材料除去食等について、卵、乳の検査を行いました。これらの検査結果を報告します。

1 卵の検査

市内のファストフード店・ファミリーレストラン等のチェーン店から収去した原材料に卵を使用していない食品16検体、および保育園、小学校等から収去した卵除去給食等56検体、合計72検体について、卵の検査を行いました。

ELISA法によるスクリーニング試験の結果、すべて陰性(10ppm未満)でした(表1)。

表1 卵の検査結果

食品	スクリーニング試験		確認試験	
	検体数	陽性数	検体数	陽性数
弁当・そうざい類	58	0	-	-
菓子類	8	0	-	-
その他	6	0	-	-
合計	72	0	-	-

2 乳の検査

市内のファストフード店・ファミリーレストラン等のチェーン店から収去した原材料に乳を使用していない食品8検体、および保育園、小学校等から収去した乳除去給食等47検体、合計55検体について、乳の検査を行いました。

ELISA法によるスクリーニング試験の結果、すべて陰性(10ppm未満)でした(表2)。

表2 乳の検査結果

食品	スクリーニング試験		確認試験	
	検体数	陽性数	検体数	陽性数
弁当・そうざい類	48	0	-	-
菓子類	2	0	-	-
その他	5	0	-	-
合計	55	0	-	-

※ELISA法によるスクリーニング試験は、抗原抗体反応を利用して食品中に含まれる特定のタンパク質(アレルゲン)を検出する方法ですが、食品の加工度合いや使用原材料によっては、偽陽性となる場合があります。そのため、スクリーニング試験で陽性となった場合は確認試験を行っています。卵、乳については、電気泳動によりタンパク質を分子量で分離して抗原抗体反応を行うウェスタンブロット法を、また、小麦、そば、落花生、えび、かにについては、特異的なDNA領域を増幅して検出するPCR法を用いて確認しています。今回、確認試験を行った検体はありませんでした。

【 理化学検査研究課 食品添加物担当 】

残留農薬検査(平成27年度 その4)

当所では、横浜市内に流通する農産物等の食品に残留する農薬の検査を行っています。平成25年度に検査項目の見直しを行い、農産物ごとに検査項目を設定しました。

今回は、平成27年12月から平成28年2月までに食品専門監視班より搬入された農産物等の検査結果を報告します。

1 市内産農産物

12月に搬入されたかぶの根、かぶの葉及びブロッコリー(各2検体)、こまつな、だいこんの根、だいこんの葉、にんじん及びはくさい(各1検体)、2月に搬入されたかぶの根及びにんじん(各2検体)、かぶの葉、キャベツ、ごぼう、さといも、だいこんの根及びはくさい(各1検体)の計21検体について検査を行いました。これらの結果を表1に示しました。

その結果、はくさいからアセタミプリドが0.02ppm、かぶの葉からルフェヌロンが0.07ppm検出されました。このうち、かぶの葉から検出されたルフェヌロンは、基準値(一律基準値0.01ppm)を超えるものでした。ルフェヌロンはかぶへの使用は認められていないため、誤って使用した、もしくは近隣の農産物に使用したものが飛散して付着した等の可能性が考えられます。検査項目及び検出限界については表2に示しました。

今回の検査で検出された農薬の概要については、4ページからの【農薬解説】を参考にしてください。

表1 残留農薬検査結果

(H27年12月～H28年2月)

農産物	産地	検査 検体数	農薬検出 検体数	検出農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
市内産農産物						
かぶの根	横浜市	4	0			
かぶの葉	横浜市	3	1	ルフェヌロン	0.07	*0.01
キャベツ	横浜市	1	0			
ごぼう	横浜市	1	0			
こまつな	横浜市	1	0			
さといも	横浜市	1	0			
だいこんの根	横浜市	2	0			
だいこんの葉	横浜市	1	0			
にんじん	横浜市	3	0			
はくさい	横浜市	2	1	アセタミプリド	0.02	0.5
ブロッコリー	横浜市	2	0			

*0.01:一律基準値

表2 農薬の検査項目及び検出限界

農薬名	検出 限界 (ppm)	検出			農薬名	検出 限界 (ppm)	検出		
		A*1	B*1	C*1			A	B	C
BHC(α,β,γ及びδの和)	0.005	○*2	-*2	-	エチオン	0.01	○	○	○
DDT(DDE,DDD,DDTの和*3)	0.005	○	○	○	エトプロホス	0.005	○	○	○
EPN	0.01	○	○	○	エトリムホス	0.01	○	○	○
アクリナトリン	0.01	○	○	○	エポキシコナゾール	0.01	-	-	○
アザメチホス	0.01	○	○	○	エンドスルファン(α及びβの和)	0.005	-	○	-
アセタミプリド	0.01	○	○	○	エンドリン	0.005	-	○	-
アゾキシストロビン	0.01	○	○	○	オキサミル	0.01	○	○	○
アニロホス	0.01	○	○	○	オキシカルボキシ	0.01	○	○	○
イプロバリカルブ	0.01	○	○	○	オリザリン	0.01	-	○	○
イプロベンホス	0.01	○	○	○	カズサホス	0.01	○	○	○
イミダクロプリド	0.01	○	○	○	カフェンストール	0.01	○	○	○
インダノファン	0.01	○	○	○	カルバリル	0.01	○	○	○
インドキサカルブ	0.01	○	○	○	カルプロパミド	0.01	○	○	○

表2 農薬の検査項目及び検出限界(続き)

農薬名	検出 限界 (ppm)	A	B	C	農薬名	検出 限界 (ppm)	A	B	C
クミルロン	0.01	○	○	○	ピリフタリド	0.01	○	○	○
クロキントセット-メキシル	0.01	○	○	○	ピリミカーブ	0.01	○	○	○
クロチアニジン	0.01	○	○	○	ピリミホスメチル	0.01	○	○	○
クロマフェノジド	0.01	○	○	○	ファミキサドン	0.01	○	○	○
クロリダゾン	0.01	○	○	○	フェニトロチオン	0.01	○	○	○
クロルピリホス	0.01	○	○	○	フェノキシカルブ	0.01	○	○	○
クロルピリホスメチル	0.01	○	○	○	フェノブカルブ	0.01	○	○	○
クロルフェナピル	0.01	○	○	○	フェリムゾン	0.01	○	-	-
クロルフェンソン	0.01	○	○	○	フェンアミドン	0.01	○	○	○
クロルフェンビンホス	0.01	○	○	○	フェンクロルホス	0.01	○	○	○
クロロクシロン	0.01	○	○	○	フェンスルホチオン	0.01	○	○	○
シアゾファミド	0.01	○	○	○	フェントエート	0.01	○	○	○
シアノフェンホス	0.01	○	○	○	フェントラザミド	0.01	○	○	○
シアノホス	0.01	○	○	○	フェンバレレート	0.01	-	○	○
ジウロン	0.01	○	○	○	フェンピロキシメート	0.01	-	○	○
ジオキサベンゾホス	0.01	○	○	○	フェンプロパトリン	0.01	-	○	○
ジクロフェンチオン	0.01	○	○	○	ブタフェナシル	0.01	○	○	○
ジコホール	0.01	○	○	○	ブタミホス	0.01	○	○	○
シハロトリン	0.01	○	○	○	フラメピル	0.01	○	○	○
ジフェノコナゾール	0.01	○	○	-	フルシトリネート	0.01	-	○	○
シフルトリン	0.01	-	○	○	フルバリネート	0.01	-	○	○
シフルフェナミド	0.01	○	○	-	フルフェナセット	0.01	○	○	○
シペルメトリン	0.01	-	○	○	フルフェノクシロン	0.01	○	○	○
ジメチリモール	0.01	-	-	○	フルリドン	0.01	○	○	○
ジメトモルフ	0.01	○	○	○	プロシミドン	0.01	○	○	○
スルプロホス	0.01	○	○	○	プロチオホス	0.01	○	○	○
ダイアジノン	0.01	○	○	○	プロピザミド	0.01	-	○	○
ダイムロン	0.01	○	○	○	ヘキサフルムロン	0.01	○	-	-
チアクロプリド	0.01	○	○	○	ヘプタクロル(エポキシドを含む)	0.005	○	-	-
チアトキサム	0.01	○	-	○	ペルメトリン	0.01	○	○	○
テトラクロルビンホス	0.01	○	○	○	ペンシクロン	0.01	○	○	○
テトラジホン	0.01	○	○	○	ベンゾフェナップ	0.01	○	○	○
テブチウロン	0.01	○	○	○	ベンダイオカルブ	0.01	○	○	○
テブフェノジド	0.01	○	○	○	ペントキサゾン	0.01	○	-	-
テフルトリン	0.01	○	○	○	ボスカリド	0.01	○	○	-
トラルコキシジム	0.01	○	○	○	ホスチアゼート	0.01	○	○	○
トリチコナゾール	0.01	○	○	○	マラチオン	0.01	○	○	○
トリフルムロン	0.01	○	○	○	メタベンズチアズロン	0.01	○	○	○
トルクロホスメチル	0.01	○	○	○	メキシフェノジド	0.01	○	○	○
ノバルロン	0.01	-	○	○	メビンホス	0.01	○	○	○
パラチオン	0.01	○	○	○	モノリニュロン	0.01	○	○	○
パラチオンメチル	0.01	○	○	○	ラクトフェン	0.01	○	○	-
ビフェントリン	0.01	○	○	○	リニュロン	0.01	○	○	○
ピラクロストロビン	0.01	○	-	-	リンデン(γ -BHC)	0.002	○	○	○
ピラゾリネート	0.01	-	-	○	ルフェヌロン	0.01	※	○	○

*1 A:かぶの葉、こまつな、だいごんの葉、にんじん及びブロッコリー B:かぶの根、キャベツ、だいごんの根及びはくさい C:ごぼう及びさといも

*2 ○:実施、-:実施せず、※:2月搬入のかぶの葉のみ実施

*3 DDTは p,p' -DDE、 p,p' -DDD、 o,p' -DDT及び p,p' -DDTの和

【農薬解説】

○アセタミプリド

『モスピラン』などの商品名で販売されている殺虫剤で、広範囲の害虫に対して効果があります。今年度実施した検査において、こまつな(市内産)及びトマト(市内産・国内産)からも検出されました。

○ルフェヌロン

『マッチ』などの商品名で販売されている殺虫剤で、幼虫の脱皮を阻害します。鱗翅目害虫(コナガ等)の幼虫やチャノキイロアザミウマの幼虫に対して高い防除効果を示し、効果は長期間持続します。キャベツ、はくさい、なす、トマト等の農産物に適用があります。

ADI(一日摂取許容量:人が一生涯にわたって毎日食べ続けたとしても、健康に悪影響を与えないと考えられる量)は0.014mg/kg体重/日です。今回かぶの葉から検出された値(0.07ppm)で換算すると、体重50kgの人が、このかぶの葉を洗わずに毎日一生涯10kg食べ続けても、健康への影響はないと考えられます。

※参考文献

- ・社団法人日本植物防疫協会、農薬ハンドブック2011年版
- ・食品安全委員会ホームページ

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】

食品中の動物用医薬品検査結果

当所では、食品中の動物用医薬品検査を行っています。今回は、平成27年9月から平成28年2月までに食品専門監視班が収去及び購入した食品の検査結果を報告します。

9月にインターネットを通じて購入した、畜産食品10件(うずらの筋肉1件、馬の筋肉1件、鹿の筋肉1件、七面鳥の筋肉1件、鶏の筋肉2件、羊の筋肉1件、ホロホロ鳥の筋肉2件及び山羊の筋肉1件)について検査を行いました。その結果、鶏の筋肉1件から合成抗菌剤ナイカルバジンが0.33ppm(基準値0.2ppm)検出されました。他の食品については表1に示すとおりすべての項目で不検出でした。

10月に市内を流通している畜産食品20件(牛の筋肉4件、牛の脂肪4件、豚の筋肉6件及び豚の脂肪6件)について、検査を行いました。また、2月に市内を流通している畜産食品10件(鶏の筋肉10件)について検査を行いました。その結果、表2に示すとおりすべての項目で不検出でした。

《ナイカルバジン》

ナイカルバジンはN,N'-ビス(4-ニトロフェニル)尿素及び4,6-ジメチル-2(1H)-ピリミジノンの混合物で鶏の盲腸及び腸のコクシジウムの予防のための抗コクシジウム薬として利用されています。コクシジウム症とは、原虫であるコクシジウムによって引き起こされる疾病で、主に下痢などの消化器症状が見られます。



表1 インターネット購入した畜産食品中の動物用医薬品の検査項目、検査結果及び検出限界

検査項目	検査結果								検出限界
	うずら (1件)	馬 (1件)	鹿 (1件)	七面鳥 (1件)	鶏 (2件)	羊 (1件)	ホロホロ鳥 (2件)	山羊 (1件)	
【合成抗菌剤】									
エンロフロキサシン (シプロフロキサシンとの和)	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オキシリニック酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オルビフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オルメトプリム	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
クロピドール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
サラフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ジフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファキノキサリン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジアジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジミジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジメキシシ	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファドキシシ	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファピリジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファメキサゾール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファメキシピリダジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファメラジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファモノメキシシ	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ダノフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
チアンフェニコール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
トリメトプリム	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ナイカルバジン	-	-	-	-	0.33 (1件)-	-	-	-	0.01
ナリジクス酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ノルフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ピロミド酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
フルメキン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
フロルフエニコール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
マルボフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
【内寄生虫用剤】									
フルベンダゾール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.002

単位:ppm N.D.:不検出

表2 市内に流通している畜産食品中の動物用医薬品の検査項目、検査結果及び検出限界

検査項目	検査結果					検出限界
	牛の筋肉 (4件)	牛の脂肪 (4件)	豚の筋肉 (6件)	豚の脂肪 (6件)	鶏の筋肉 (10件)	
【合成抗菌剤】						
エンロフロキサシン (シプロフロキサシンとの和)	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
オキシリニック酸	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
オフロキサシン	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
オルビフロキサシン	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
オルメトプリム	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
クロピドール	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
サラフロキサシン	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
ジフロキサシン	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
スルファキノキサリン	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
スルファジアジン	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
スルファジミジン	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
スルファジメキシシ	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
スルファドキシシ	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
スルファピリジン	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
スルファメキサゾール	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
スルファメキシピリダジン	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
スルファメラジン	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
スルファモノメキシシ	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
ダノフロキサシン	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
チアンフェニコール	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
トリメトプリム	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
ナリジクス酸	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
ノルフロキサシン	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
ピロミド酸	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
フルメキン	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
フロルフェニコール	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
マルボフロキサシン	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.01
【内寄生虫用剤】						
イベルメクチン	-	N.D.	-	N.D.	-	0.005
エプリノメクチン	-	N.D.	-	N.D.	-	0.005
モキシデクチン	-	N.D.	-	N.D.	-	0.005
フルベンダゾール	N.D.	-	N.D.	-	N.D.	0.002

単位:ppm N.D.:不検出

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】

横浜市感染症発生動向調査報告 2月

《今月のトピックス》

- インフルエンザ流行警報発令中です(警報発令基準値:定点あたり30.00)。
- 第7週では、インフルエンザの流行の主体はB型です。
- AH1pdm09による、インフルエンザ脳症の報告が第3週にありました。

全数把握の対象

【2月期に報告された全数把握疾患】

細菌性赤痢	1件	急性脳炎	1件
A型肝炎	2件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
デング熱	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	2件
レジオネラ症	8件	侵襲性肺炎球菌感染症	10件
アメーバ赤痢	2件	梅毒	4件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3件		

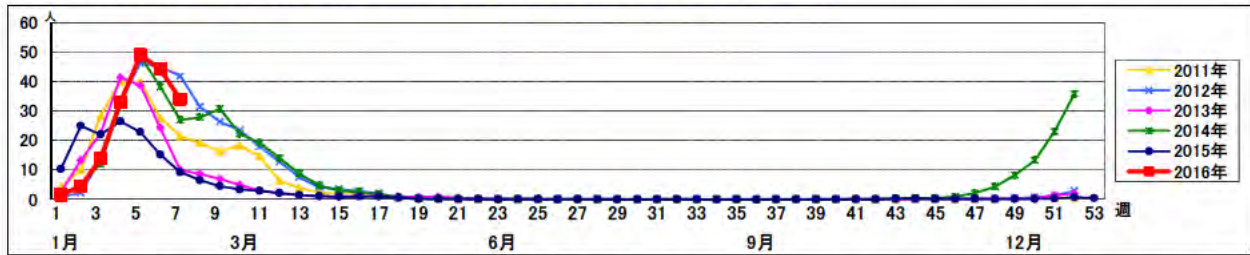
- 1 **細菌性赤痢**: *Shigella sonnei*(D群)の報告が1件あり、海外(タイ)での経口感染が推定されています。
- 2 **A型肝炎**: 2件の報告があり、1件は海外(インドシア)での経口感染、もう1件は感染経路感染地域不明でした。
- 3 **デング熱**: 1件の報告があり、海外(カンボジア)での感染が推定されています。
- 4 **レジオネラ症**: 肺炎型8件の報告がありましたが、現在感染経路等調査中です。
- 5 **アメーバ赤痢**: 腸管アメーバ症2件の報告があり、1件は性的接触による感染で、感染地域不明。もう1件は国内での感染で感染経路等不明でした。
- 6 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**: 3件の報告がありました。
- 7 **急性脳炎**: 1件の10歳代の報告が第3週にありました。インフルエンザウイルスAH1pdm09が検出されています。
- 8 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**: 1件の80歳代の報告があり、創傷感染が推定されています。
- 9 **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**: 無症状病原体保有者2件の報告がありました。どちらも国内での異性間性的接触による感染が推定されています。
- 10 **侵襲性肺炎球菌感染症**: 成人例10件の報告があり、そのうち1件では予防接種歴(約1年前)が確認できましたが、他はすべて確認できませんでした。
- 11 **梅毒**: 4件の報告(早期顕症梅毒Ⅱ期2件、早期顕症梅毒Ⅰ期2件)があり、すべて国内感染例でした。感染経路では、異性間性的接触1件、性的接触(性別不明)2件、感染経路等不明1件でした。

定点把握の対象

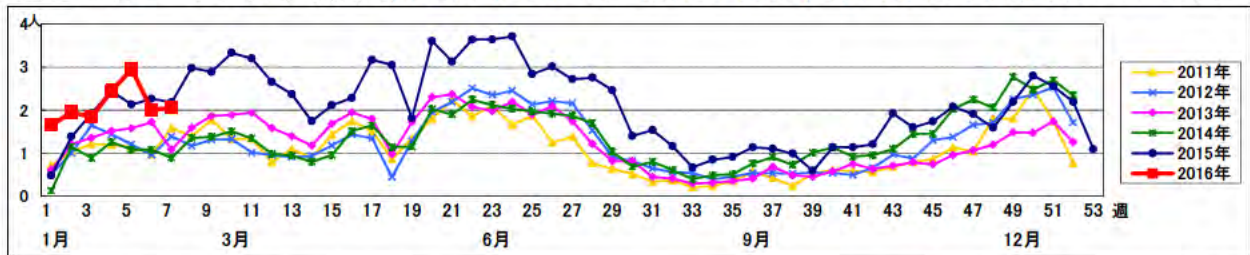
平成28年 週一月日対応表	
第4週	1月25日～1月31日
第5週	2月 1日～2月 7日
第6週	2月 8日～2月14日
第7週	2月15日～2月21日

- 1 **インフルエンザ**:第4週に市全体で、警報発令基準値である定点あたり30.00を上回り、流行警報が発令されました。その後第5週48.93をピークに第7週33.90と減少傾向です。ただ、依然として報告が多い状態や、入院例の報告が続いており、引き続き注意が必要です。医療機関における迅速診断キットの結果では、いままで多かったA型に代わり、B型の報告の方が多くなりました。市内で検出されたウイルスでも、第7週はB型(Victoria系統)4件、B型(山形系統)3件、AH1pdm09型4件と、B型がA型を上回っていました。これからは、流行の主流はB型が占めるものと思われます。横浜市衛生研究所で実施したワクチン株との抗原性解析では、解析したAH1pdm09株とB型(Victoria系統)株はすべてワクチン株と類似していました。今後もインフルエンザの流行が継続すると考えられるため、手洗い等の感染予防や早期受診などの重症化予防対策が重要です。

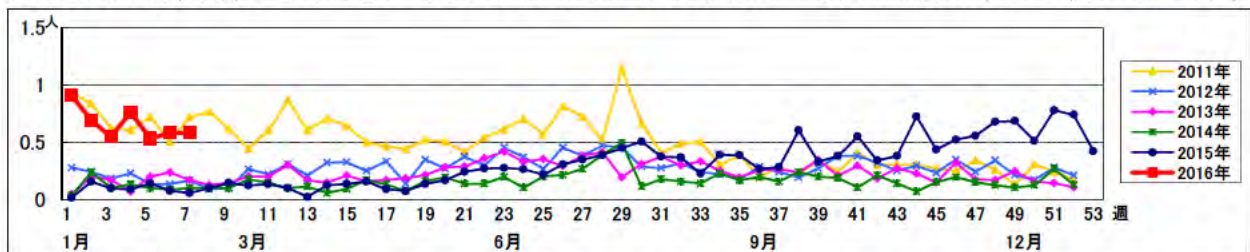
◆参考:[感染症臨時情報「インフルエンザ」\(横浜市感染症情報センター\)](#)



- 2 **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**:第7週は市全体で定点あたり2.05と、例年より報告が多くなっています。



- 3 **流行性耳下腺炎**:第7週は市全体で定点あたり0.58と、例年に比べて報告が多い状況が続いています。



- 4 **性感染症**:1月は、性器クラミジア感染症は男性が17件、女性が18件でした。性器ヘルペス感染症は男性が5件、女性が5件でした。尖圭コンジローマは男性が4件、女性が4件でした。淋菌感染症は男性が11件、女性が3件でした。
- 5 **基幹定点週報**:マイコプラズマ肺炎は第4週0.67、第5週0.25、第6週1.50、第7週0.00と報告されています。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)は第4週0.67、第5週0.00、第6週0.50、第7週0.00と報告されています。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 6 **基幹定点月報**:1月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症4件の報告がありました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

<ウイルス検査>

2月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点59件、内科定点24件、眼科定点3件、基幹定点15件で、定点外医療機関からは3件でした。

3月7日現在、ウイルス分離75株と各種ウイルス遺伝子15件が検出されています。

表 感染症発生动向調査におけるウイルス検査結果(2月)

分離・検出ウイルス	主な臨床症状	上気道炎	下気道炎	インフルエンザ	咽頭結膜熱 ^{*1}	無菌性髄膜炎	流行性耳下腺炎	発疹症	心筋炎	弛緩性麻痺	ギランバレー症候群
アデノ NT ^{*2}				1	1						
アデノ 2型				1							
インフルエンザ AH1pdm09型		1	3	36					1	1	
インフルエンザ AH3型			1			1					1
インフルエンザ B型ビクトリア系統				17				1			
インフルエンザ B型山形系統				9							
パラインフルエンザ 1型				1							
パラインフルエンザ 2型				1							
パラインフルエンザ 3型				1				1			
ヒトコロナ ^{*3}		4		1							
ムンプス							2				
ライノ		1									
合計		1 5	3 1	66 5		1	2	1 1	1	1	

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

*1:アデノ感染症を含む、*2:型未同定、*3:HCoV 229E or NL63、HCoV OC43

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

2月の感染性胃腸炎は、基幹定点から5件、その他からが2件で、赤痢菌(*S. sonnei*)、サルモネラ(*S. Newport*)、*Campylobacter jejuni*が検出されました。

その他の感染症は、小児科定点から5件、基幹定点から10件、その他からが71件でした。G群溶血性レンサ球菌は劇症型溶血性レンサ球菌感染症患者から検出されました。*Legionella pneumophila*の血清型は1群でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(2月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	2月			2016年1月～2月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	0	5	2	0	14	8
菌種名						
赤痢菌			1			1
腸管出血性大腸菌						1
サルモネラ		1			3	
カンピロバクター			1			1
不検出	0	4	0	0	11	5

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	2月			2016年1月～2月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	5	10	71	9	13	111
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌	T4			1		
	型別不能	4		6		
G群溶血性レンサ球菌		1			1	1
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌					1	
<i>Legionella pneumophila</i>			1			1
インフルエンザ菌						1
肺炎球菌		1	7		2	15
結核菌			53			77
百日咳菌		1			1	
その他		2	6		2	7
不検出	1	5	4	2	6	9

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成28年2月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。

1 利用状況

(1) アクセス件数 (平成28年2月)

平成28年2月の総アクセス数は、150,039件でした。主な内訳は、感染症情報センター82.1%、保健情報3.6%、検査情報月報2.2%、食品衛生2.0%、生活環境衛生1.5%、薬事0.4%でした。

(2) アクセス順位 (平成28年2月)

2月のアクセス順位(表1)

表1 平成28年2月 アクセス順位

は、第1位が「横浜市インフルエンザ流行情報4号」、第2位が「横浜市インフルエンザ流行情報5号」、第3位が「インフルエンザ流行情報(2015/2016)」でした。

2月の総アクセス数は、前月に比べ約3%増加しました。今月の1位と2位は、横浜市インフルエンザ流行情報4号と5号でした。1月の中旬より、インフルエンザの流行期に入り、学級閉鎖の情報も増加してきました。2月には、ピークを向えて急激な感染の広がりが見られました。それを反映して、今月の10位までのアクセス順位に、インフルエンザ関連情報へのアクセス件数が6件入りしました。インフルエンザの予防としては、ワクチンが有効ですが、日常の手洗いやうがい、マスクの着用などがとても大切です。3位も、インフルエンザ流行情報(2015/2016)となりました。

順位	タイトル	件数
1	横浜市インフルエンザ流行情報4号	9,493
2	横浜市インフルエンザ流行情報5号	8,508
3	インフルエンザ流行情報(2015/2016)	7,246
4	横浜市感染症情報センター	6,578
5	衛生研究所トップページ	6,379
6	横浜市インフルエンザ流行情報6号	6,229
7	横浜市インフルエンザ流行情報3号	4,914
8	EBウイルスと伝染性単核症について	3,387
9	クロストリジウム-ディフィシル感染症について	3,387
10	横浜市インフルエンザ流行情報7号	2,872

データ提供: 市民局広報課

「横浜市インフルエンザ流行情報4号」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/influenza/2015/rinji04.pdf>

「横浜市インフルエンザ流行情報5号」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/influenza/2015/rinji05.pdf>

「インフルエンザ流行情報(2015/2016)」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/influenza/influenza-rinji-index2015.html>

(3) 電子メールによる問い合わせ（平成28年2月）

平成28年2月の問い合わせは、2件でした(表2)。

表2 平成28年2月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
生物兵器について	1	感染症・疫学情報課
HIV検査について	1	感染症・疫学情報課

2 追加・更新記事（平成28年2月）

平成28年2月に追加・更新した主な記事は、14件でした(表3)。

表3 平成28年2月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
2月 1日	感染症に気をつけよう(2月号)	掲載
2月 1日	髄膜炎菌性髄膜炎について	更新
2月 4日	横浜市インフルエンザ流行情報4号	掲載
2月 5日	ジカウイルス感染症(ジカ熱)について	掲載
2月10日	アメリカ合衆国の大人の定期予防接種について	更新
2月12日	横浜市インフルエンザ流行情報5号	掲載
2月12日	アメリカ合衆国のこどもの定期予防接種について	更新
2月17日	ジカウイルス感染症(ジカ熱、ジカウイルス病)について	更新
2月18日	横浜市インフルエンザ流行情報6号	掲載
2月18日	ポルトガルのこどもの定期予防接種について	更新
2月22日	スペインのこどもの定期予防接種について	更新
2月24日	フランスのこどもの定期予防接種について	更新
2月25日	横浜市インフルエンザ流行情報7号	掲載
2月29日	感染症に気をつけよう(3月号)	掲載

【 感染症・疫学情報課 】